



414
A 798
11

極秘

第一種

參 陸軍部 權第九號ノ一

明治三十一年八月十七日馬尼刺殺

陸軍砲兵大尉時澤右一第卅五報告

戰後

馬尼刺ノ景況ハ靜穩ニシテ及米間ノ衝突モ

物價(野菜生肉等)地方ヨリ輸入シ来ル物品ハ一時甚

輸入ヲ拒バムニ因ル

馬尼刺城降服ノ条件ハ甚ダ寛大ナリ西班牙軍カ

爲セシ能ハサル所ナリ蓋シ將來真ノ武勇ナル防戦ヲ

三「カローカン」サニアエルナシト「間」汽車通ス(會社ノ手

265
5-12



ニ據リ何物一々及徒ノ点檢ヲ経
及徒ハ糧食ヲ馬尼刺ニ入レズ
尤ニ降服ニ関スル兩軍ノ諭告及条約書ニ通テ
添テ

菲律賓總督及ニ軍隊司令長官ハウデ子ス

千八百九十八年八月十四日

降服ニ関シ陸海軍及義勇兵ニ諭告ス

開戦ヨリ既ニ長日月汝等ノ勞實ニ大ナリ且レ独リ
西班牙本國ガ汝等ニ感謝スル所タルノミナラス米國モ
亦大ニ尊敬スル所ナリ乃チ吾人軍人ノ名譽ヲ保ツル爲メ
汝等ノ旌旗ハ汝等之ヲ保有スバク汝等ノ武器ハ一旦
米軍ニ交付スト虽凡他日再ニ還賦セラルバク汝等ハ
自由ニシテ捕虜タルノ權利ヲ失ハズ希クハ汝等善ク

旧ノ如ク軍紀ヲ嚴守シ捕虜タルノ義務ヲ怠ルコト勿レ
嗚呼背恩戾義ノ及賊ヲ防ギタル地ニ往スルニ不快
亮ヲ免レスト虽モ汝等ガ名譽ヲ傷ラレサルハ明白ナリ
聊カ以テ余ガ汝等ト共ニ慨ゲク不キヲ慰ムルニ庶幾
カラシキ

コテハローレ布告

菲律賓群島合衆國司令長陸軍少將「ウエスレー」
メルリットト及菲律賓群島西班牙臨時司令長官
ハウデ子ス閣下ノ間ニ定メラル各条約ニ據リ馬
尼刺市其防衛物其郭外及馬尼刺市ヲ守禦
セル西班牙軍隊降服ノ細目ヲ定ムル爲メニ任命セ
ラレタル下各ノ各委身ハ次ノ諸項ヲ結締セリ
一 西班牙軍隊ハ戰陣ノ各營ヲ有テ防衛物及堡塞

ト共ニ米軍ニ降参シ兩文戰國間ニ平和各条約ノ確
 定セラル。近政人ト土人トニ論ナク武器ヲ合衆國官
 吏ガ指定セル地点ニ於テ米人ニ文附ス
 各兵卒ハ其長官ノ命令下ニ在テ米人ノ指定スル家屋
 ニ住居ス而シテ米國官吏之ヲ監視ス
 將校ハ其自宅ニ住居スルヲ得現行法律ヲ犯サル限
 リハ其住居ヲ侵害サルコトナカルベシ
 二 將校ハ携帶兵器及私有物ヲ領有ス
 三 官有ノ動産不動産ハ之ヲ米國參謀官ニ列渡ス
 四 軍隊ノ人負材料表在庫目録ハ十日以内ニ之ヲ
 米政府ニ列渡ス
 五 西國將校下士卒及其家族ノ帰國及ビ之ニ関スル旅
 費ハ他日米政府之ヲ規定ス

家族ハ馬尼刺ヲ退去スルヲ勝手者ベシ
 軍隊ガ文附セル兵器ハ米西兩軍中ノ何レカ要塞ヲ
 別キ拂フトキ之ヲ西軍ニ還附スルモノトス
 六 西班牙金庫ニ現在スル貨幣有價物件及其他ノ
 官有金之ヲ米軍ニ列渡スベシ
 七 市民寺院宗教學校及各種ノ私有物(馬尼刺ノ
 米軍々隊ノ信義我ト各答ノ下ニ之ヲ置ク
 千八百九十八年八月十四日於馬尼刺
 合衆國義勇兵少將 エフ・グイー・グリーン
 大佐 ビービー・ラレハルト
 陸軍監督中佐相考官 チャーレス・アーウィナル
 陸軍中佐 イーエッチ・コロニナル
 理事長 ニコラス・デ・ラ・ペーニヤ

工兵大佐
参謀大佐
参謀總長

カーロス、レーエス
ホセ・マリア・デ・ラ・ゲル・フェリウ
セレスチーノ・エツエ、テヘロー
(終)

明治三十年八月十八日馬尼刺殺

陸軍砲兵大尉時澤右一第百六報告

一第百八軍專高級副官バブコック氏、談話に依り
ハ米西間平和條約ハ布告サレタリ勿論未タ西
院ノ議決ヲ經ス條項ノ委細ハ之ヲ知ラスト
昨日日本艦隊司令官野村少將ヘモ左ノ通知
アリタリ

(譯文)

大統領ガ署名シタル假條約書ハ交戦及ヒ封
鎖ノ動作ヲ休止ス
此ノ條約書ニ依リハ合衆國ハ菲律賓宿島ノ管
理ヲ讓リ渡シ及統治權ヲ定ムル平和條約完

持スル迄馬尼刺ノ都市港及ヒ湾ヲ占領シ及ヒ保
本條約ハ倫敦發十三日ノ電報ニ掲載セル故既ニ
御承知ト存ズ
メリットト將軍曰ク本條約ハ玖瑪「ポルトリ」ニ菲
律賓及其他ノ場所ニ於テ同一時ヨリ實行
スル為メ本月十六日ヨリ實施ノ答ナリト
ニ「メリット」將軍副官「バゴック」等ニ菲律賓ノ
將來ニ就キ意見ヲ叩キタレドモ吾人ハ軍人ナ
リ政治ニ関セス只本國ヨリ受クル其時々ノ命令
ニ依テ動クノミナレハ何事モ言フコトヲ得ストノミ
答ニテ何事ヲモ探リ得ス
然レモ佐尉官連中ノ意見ハ殆ント萬口同轍概

ネ左ノ如シ
曩キニ成ラントセシ平和條約ノ條項ハ菲律賓ニ
於テハ一小島「ラドロン」島ヲ指スナラン及ヒ石炭貯
蓄所ヲ得ルヲ以テ満足セシガ彼レ西班牙頑固
ニシテ之レヲ聽カス我國ヲシテ更ニ幾多ノ費用ト
人命トヲ失ハシメタリ故ニ今ヤ呂宋ニ於テ更ラニ
一大海岸ヲ得スバ止マサル可シ我カ政府カ彼ノ
貧國ニ對シテ過重ノ償金ヲ料スルノ意ナキハ
明瞭ナリ云々
又及後ノ始末ニ就テハ多少ノ困難ヲ生ス可キハ
覺悟ナレドモ深ク意ニ込セザルモノ如シ然レモ
米國若シ過大ノ陸地ヲ占領統御セント
欲スルトキハ必ス土人ノ反對ヲ受ク可シ特ニ及

徒ハ容易ニ之レヲ承認セサル可シ
三米國ニ對スル土人ノ意向

三種アリ

一ハ大ニ好意ヲ表スル者、此種類ハ特ニ馬尼刺
市中ノ土人ニ多シ而シテ其意中ヲ探レバ前報
告ニ概記セシカ如ク米人ハ必ス及徒ヲ助ケ
テ其ノ独立ヲ承認ス可ク其ノ報償トシテ土
人ヨリ軍費ヲ賠償セバ可ナリト云フカ如ク單
簡ナル考ヲ有スル者ニシテ無智蒙昧ノ階級
ニ屬ス 此種類ニシテ稍智識學力アル輩
ニシテ專ラ米國保護ノ蔭ニ息ハントスル者アリ
此一派ハ多ク代言人若クハ香港辺ニ在ル者トス
及徒首領中ニハ極メテ僅少ナリ而シテ彼等

獨立ト受保護ト何レカ勝ルト尚ハ一モ二モ
無ク獨立ト答フルモ大ニ自ラ力ノ足ラサル

ヲ認ケルモノ、如シ

二ハ全ク可否ノ意見ヲ有セサル者、此種類ニ屬
スル者ハ最下級ノ愚民及無氣力ノ人民トス其
類最モ多シ 此種類ハ容易ニ米若シクハ其他
ノ新勢力ニ服從セシム可シト虽モ又及對ニハ容

易ニ之ニ向テ鉾ヲ採ラシメ得ベシ

三ハ轍頭轍尾獨立ヲ獲取セント欲スル者、此種
類ハ及徒即チ自ラ革命軍ト稱スル者ノ首
領株及ヒ未タ及徒ト為リテ干戈ヲ取ラサル有
力者トス 此種類ハ目下並律賓ニ於ケル原動
カト見テ可ナリ勢力強シ

此種類ヲ更ニ細別スレハ軟硬ノ二ニ分ツヲ得ヘシ
硬派ハ米國カ及徒ノ力ニ依リテ今日迄哉
多ノ有利便宜ノ位置ニ立キシモ係ラス今日
馬尼刺陥落ノ後ハ武器ヲ取り多ク及徒ヲ
市中ニ入ルヲ峻拒セシノミナラス米國ノ独
立承認モ望ミ少ナキニ至リシヲ以テ大ニ奮
慨シ去ル十四日以來馬尼刺ノ米人ヲ攻撃
ス可シト屢々「アギナルド」ニ迫リシ輩ニシテ及徒
ノ將校中ニ多シ
軟派ハ「サングーロ」及二三名士ノ一派ニシテ馬尼刺
米人攻撃ヲ非トスル者ナリ此ノ派モ軟派
トハ云ヘ決シテ米ノ保護ヲ望ムモノニ非ス非
米攻撃ノ理由ハ左ノ如シ

第一、攻撃スルモ他日ノ紛擾ヲ招クノミニシテ海
上ニ堅艦アル以上ハ馬尼刺ヲ保持シ難シ
第二、及徒ヲ今日馬尼刺ニ入ルハ掠奪其他
ノ不品行ヲ外人ニ顯ハスノミナラス西班牙人
ヲ虐殺スルノ患ヒアリ故ニ馬尼刺ニ入ルコ
トヲ拒マレシハ却テ幸ナリ云々
而シテ此輩ハ到底永久米ト親密ナルヲ望
ムニ非ラス平和條約確定後ハ成リ行キ
ヲ見テ而シテ後々及徒ノ色ヲ表ハスモ遲カ
ラスト為スナリ
彼等ハ今日專ラ武器ノ購入ト他國政府ノ
援助ヲ暗ニホクシテカカルモノノ如シ而シテ
平和條約確定後ノ成行ニ依リ其ノ下策ヲ

ラカン州ノ山中ニ立テ籠ルニ在リ
 此種ハ目下其目的ヲ達シ「アギナルド」以下ヲ説キ
 テ漸ク米及間ノ衝突ヲ防キ得タリ
 三、今日中ニ及徒ト米トノ間ニ成リ立ク（十或ル
 條約ニ署名セラル可シト傳聞ス本報告ヲ
 記スマテハ未タ其ノ虚実ト如何ナル条約ナ
 ルカラ知ルヲ得ス
 今日米及ノ首領何事ヲカ會議セリ
 四、「アギナルド」ハ「バコール」ニ在テ更ニ動カス
 首領株ノ多類ハ馬尼刺ノ南方「エルミタ」ニ本
 營ヲ構ヘテ集マリ居レリ
 「バコール」ハ及徒五百余アリ
 「トンド」ノ一端モ亦及徒ノ占領スル所ナリ

米人ハ武器ヲ携ヒタル及徒ヲ一切市内ニ入レ
 シメス然レモ及徒ハ自由ニ市内ヲ徘徊ス
 及徒ノ將校中往々帶劔ノ俣市内ヲ散
 歩スル者アリ
 西人ト及徒ト時々爭鬪シ前日モ及徒數名
 西人ノ為メニ短銃ヲ以テ射ラレタリ
 西班牙人ノ舊「ブロツクハウス」塹壕ハ悉ク及
 徒ノ占領スル所ナリ
 五、米人ヲ殺せん及徒十名米人ノ為メニ銃殺ノ
 刑ニ處セラレタリ
 六、及徒ハ「バコール」ノ方面ヨリ米人ト共ニ
 進入シ城外ニ達セリ西班牙歩兵第七十
 三聯隊（營ヲ）ノ如キハ及徒米人ニ先

ワコト八分ニシテ之レヲ占領セリ
「ガントナ」ニ於テ西兵百名許ヲ捕虜トシテ
「ラグナ」ヲ經テ「モロン」州ニ送レリ小銃三百
餘ヲ函獲ス

「カウイ」テノ西捕虜ニシテ及徒ノ手ニ在ルモノ
ハ糧食ノ供給不元分ニシテ顔色憔悴セリ
ト云フ

七、**湖ノ南岸**「ガクタクル」スハ土地豊饒要害
堅固ニシテ由來**馬尼刺**ノ堡障ト稱セリ西班
牙ノ大**依某**之レニ據リテ降ラズ及徒ハ大ニ力ヲ
費セシカ本日**陷落**セリト云フ
八、**蒸汽船**「ゴム」ハニヤヘ子ラルル早ヲ以テ「イロイロ」ニ向

ヘル及徒ノ遠征隊ハ好結果ヲ得テトノ報アリ

九、**水源保護**ノ為「**コルキナ**」方面ハ派遣セシ米兵一中隊

許リハ及徒ノ拒ム處トナリ意ヲ得ズニテ還ル

十、**米人ハ馬尼刺**及其郭外ニ軍政ヲ布ケリ

總督、**メリット**（**オハ**軍團又太平洋派遣隊司令官）

秘書、**バブコック**（高級副官）

市長、**マクアーサー**（**オハ**旅團長）

知港事、**グリーン**（**オハ**旅團長）
（「カウイ」テノ知港事ヲ「オハ」ニシテ
「オハ」ニシテ任命セラル）

十一、**郵便局**ヲ閑ケリ而シテ旧西班牙官吏ヲ其僭使用セシ

トセシガ（**局長**ハ**米人**）西人ノ之ヲ肯カス為メニ僅カニ外

國郵便ノミヲ取扱フトナレリ旧**馬尼刺**總督ハ

彼等ニ**米人**ノ言ヲ聴クベキ様訓諭ニ盛力ニ居レリ

ト云フ余ハ之ヲ肯カサル吏員ニ同意ス

税関吏ハ多ク旧官吏ヲ用ユ

去前馬尼刺總督ハ十三日砲撃ヲ終ルヤ否ヤ直チニ独艦ニ乗ジテ香港ニ向ツテ去レリ蓋シ總督ノ胸中一方ニハ「カスヤリヤ」民族ノ末路ヲ悲シシ一方ニ僅ニ數日前ノ免職為メニ面縛ノ降將タルヲ免レシヲ祝ヒ喜憂相文錯セシナラシ事ニ臨ニテ屢々其当局者ヲ交置ス玫瑰場ニ菲律賓賓東西軌ヲ一ニス而シテ寸毫事ニ益無シ只笑ヲ天下ニ招ク段鑑豈ニ西班牙ノ為メノミナランヤ

三降服總督「フェルミン」ハウデ子ハ氏ハ六十ニ近キ老人ナリ顔色江潮猶ホ用テルニ足ルヲ示スト虫尾「メリッ」ト將軍ト詰ルノ状句々諄々慥ニ老耄ノ一標本ナリ「テロー」參謀長貪婪飽ク無キノ大僧正自ラ好テ

彈劾シ此好總督ヲ戴キテ降服ノ名譽ヲ博シ得タリ彼輩知ラズ満足スルマ否ヤ七國ノ末路古来此種ノ人物多シ

西班牙兵ノ捕虜寺院其他公有立物内ニ居レリ監視嚴ナラズ將校ニ帶劔ヲ許シ優待ニ居レリ妻女ノ手ヲ携ヘテ嬉々公園ヲ散步スル將校優ク敗國ノ軍服ヲ纏テ娼家ニ出入スルノ兵卒白日公然慚色ナシ其面ニ唾スルモ飽カズ米國ハ好敵手ヲ撰ミタリト云フベシ

五米兵ノ秋毫モ犯サルハ入城ノ當時大ニ下官ヲシテ同情ヲ喚起セシメタリ然レ氏近來時々強奪強姦等ノ悪声ヲ耳ニス酒店ニ喧囂セル者蹒跚路上ニ大声ヲ發スルモノ目トシテ之ヲ見ザル無シ独乙

某艦長曰ク「フアーモルヤ」カーパンター「ラ引張り来リ
テ立派ナル戦争ガ出来レバ結構ナリト
ナ六、近日入港セシ米艦長曰ク「コリアナ」群島「グアム」独
艦一隻在リト、其他外交上ニ得ル所「ロナ」只米ノ
「メリット」將軍ヲ正式訪問スベキヤ否ヤニ付キ、独佛
領事ハ「ラ非」トシ英「ラ是」トス、是レ並律賓ニ
對スル諸國ノ妄想ト視テ可ナラン乎
トモ、及徒ハ馬尼刺市内ニ糧食ヲ入ルヲ許サズ、又供水
ニ不服ヲ唱フルガ如キハ、米及間ノ一衝突ト視テ可
ナラン然レモ、及徒ト米國トノ間ニ密約アリヤニ就テハ
一刀兩断ノ鉄案ヲ下ス能ハズ、職務上眞ニ慚愧ナ
ク、万思滿ノ至ニ堪ハズ、暫ク以太利領事ノ言ヲ
書シテ參考ノ一助トス曰ク

米及間ニ密約アルハ疑フベカラズ、其証トシテ拳ゲニ手
今「ラ及徒」ハ四圍ノ「ブロック」コースヲ占領シ在リ、馬尼
刺ヲ占領スルハ容易ノ業ナリ、然ルニ「ラ及徒」ヲ爲サズ、是
レ一証ナリ、又米國ノ側ニ就テ言ハバ、及徒ノ平定セ
ザルハ、此モ無キ好口實ヲ世里リ、其ハルモ「ナリ」
一朝西班牙ノ旧領ニ復セバ、及徒ノ蜂起セン、明ナリ
故ニ我之ヲ押ヘテ安寧ヲ保持スト、如此漸々其
根蒂ヲ固フセント欲ス云シ
此言ノ悉ク信ス可ラサルハ、勿論ナレドモ、及徒ガ馬尼
刺ヲ攻取ルセザルハ、当分事「実ナリ」
之レニ及シ、及徒ノ進ハスベキ要路ニハ米人隊ヲ配リ、砲
ヲ据テ敬言備知嚴ニス
大馬尼刺ノ秩序ニ紊レズ、店舖ヲ閑クモ、過半然レモ

土人ノ帰来スル者多カラズ

先戦況報告ニ就キ下官ノ調査セント欲スル所口元ノ如シ

一 旅團以上命令ノ聯繫及実施(最初ヨリ)

一 実況(戦用ノ)

一 艦隊ノ位置動作命令

一 揚陸ニ使用セル材料

一 全軍ノ各部各隊ノ編制

一 歩兵ノ武器装具被服一切ノ重量

一 砲兵ノ彈藥

一 携帶糧食

一 傷表及疾病ノ種類

一 航海中ノ供水量及噸数等

此材料ノ過半既ニ之ヲ得タリ

(終)

明治三十一年八月二十日馬尼刺發

陸軍砲兵大尉時澤右一第百十七報告

地方瑣話

本日田川吉太郎ナル者「アラカン」ヨリ来ル其ノ談

話豫テ報告セル所ト符節ヲ合スルモノ多シ

一 及徒對米間ノ改畧的消息ハ豫テ報告スル

所ヲ以テ事實ト見テ大過ナカラシ

二 注意ス可キ点多數愚民中ヨリ頭角ヲ露

出セル「アギナルド」以下ノ向背ハ又容易ニ此

男老民ヲ左右シ得ルキ点ナリ

三 地方一般ノ土人ハ「亞米利加」ニ敬慕ヲ表ス然

レ馬尼刺ヲ渡サバ攻撃セント威

張リ居レリ

四、反徒ハ意外ニ巨額ノ金ヲ有スルナル可シ土人ハ喜
 シテ「アギナルド」ノ徴税後ニ應ス
 西班牙ノ官衙ヨリ今捕セム金ノミテモ「アラカン」
 市丈ケニテ五万「ペソ」
 僧徒所有ノ田地ノ租税ハ今年丈ケ革命改
 府ニ納メタリ此額決シテ少額ニ非ス
 五、僧侶ハ地方ニテハ奴隸ノ境遇ニ陥レリ一食粗
 米一皿蟹ニ足衣ハ破ル、追更ユルヲ許サス採
 ル所ノ業ハ草ムシリ水牛ノ番守
 六、土人「ボリー」ニ多ク西班牙人ヲ苦使ス
 兵卒ノ捕虜ハ苦役ニ服セシメズ
 七、「アギナルド」ノ威望熾シナリ有識者ハ彼レノ政事
 家ニ非ルヲ熟知ス土人曰ク

「アギナルド」ヨリ「エラ」人ハ澤山アル此澤山人
 ハ皆「アギナルド」ノ受シ共ニ仕事ヲムカフスト
 八、日本人ノ氣受ケテ不相交フ事

(終り)

